【第五十号 二〇〇九年 二月 五日発行】

福音の園だより

ご家族の声

入居してからは、私の方が癒されて、

優しいのが一番で、私の方が癒された感じです。 人二才の父は、中学校で教員をして、市内中学校長 を最後に定年退職しました。三年前の夏頃から認知症 大にともありました。物忘れ外来など、色々な病院を 大きにしか入浴させられず、この先どこまで重くなっ ときにしか入浴させられず、この先どこまで重くなっ ではトイレは間に合いましたが、お風呂は夫が居る ときにしか入浴させられず、この先どこまで重くなっ でも自宅へは戻れず、施設入所を検討しました。 入居してからはスタッフの皆さんがとても 入居してからはスタッフの皆さんがとても 人居してからはスタッフの皆さんがとても

デイサービス開園1周年に寄せて

満を持して開園したデイサービス

した。デイサービス利用状況を報告いたします。共用型通所介護事業所を開設して一年が過ぎまグループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳

「面会」からそのまま利用開始されたMさん

通じて、週3回のデイサービス利用が開始された。 要がご入居された。その後「三年も待っていてくれた妻なのでお邪魔でない限り面会に行くようにした妻なのでお邪魔でない限り面会に行くようにしています」と毎日のように来園下さる。やがて、ご本人にも認知症状が見られるようになりご家族と本人にも認知症状が見られるようになりご家族と本人にも認知症状が見られるようになりご家族と本人にも認知症状が見られるようになりご家族と本人にも認知症状が見られるようになりご家族と本人にも認知を待ち侘びておられた。満を持して、過3回のデイサービス利用が開始された。

「照れくささ」無くなり、馴染まれ始めて

「共に生活する」を食堂脇・事務室から 次第に照れくささが無くなり馴染まれ始められた。 のホーム滞在」となり、戸惑いから連発される「も のホーム滞在」となり、戸惑いから連発される「も のホーム滞在」となり、戸惑いから連発される「も のおーム滞在」となり、戸惑いから連発される「も のおーム滞在」となり、戸惑いから連発される「も のまして、様々なプログラムを共に過ごされ をうちに、「童心にかえったみたいだ!」と喜び、 るうちに、「童心にかえったみたいだ!」と喜び、 るうちに、「童心にかえったみたいだ!」と喜び、 に業を「補佐」しておられた。そして、完成品への に業を「補佐」しておられた。そして、完成品への に業を「補佐」しておられた。

らにして、詳細な様子観察ができたのだった。「玄関入口脇に事務室」が定番のところを「食堂ホール脇に事務室」を、しかも間仕切り無しのカウンール脇に事務室」を、しかも間仕切り無しのカウンター形式にと提案した。片隅の「隔絶」した事務室ター形式にと提案した。片隅の「隔絶」した事務室をいう視点とはならないからだ。前述Mさんの五年をいう視点とはならないからだ。前述Mさんの五年をいる。

人員配置プラス1人は、デイサービス業務に

開園時から「プラス1人」の管理者が そこで、デイサービスのために新たな 花菜園、 ③「全国初・本格的な園芸療法活動」実現のため、 ため、機関誌『福音の園だより』毎月三百部発行。 ①ご利用者十八名の通院介助や緊急時対応。②NP め当園では管理者業務を明確化した。その内訳は、 働・重責等から「管理者の離職」が何処のグループ を含めた交代勤務に組み込まれる。その結果、重労 件費抑制のため、管理者も介護業務を兼務し、夜勤 この配置人数には管理者は含まれていない。通常、人 から3人配置、午後一時からは4人配置となる。尚、 に対して3人配置)。当園は五交代制のため午前十時 デイサービス業務(送迎車運転、 〇の使命である「情報公開と事業広報PR」達成の ホームでも繰り返されている。このリスク回避のた 人員を増員(人件費アップ)することなく プラスされて計12人で、配置基準が4人となる。 デイサービス開始に当り、「デイ通所者一日3人」 グループホームの配置基準は3対1(入居者9人 他の維持管理――等に五年間専念してきた。 、他)を

端唄演奏会 端唄 葵の会 様(川越市) 御礼 新年かるた会 木野目すみれ会様(川越市)行なうことで対応し、現在に至っている。

様子。行事の日、皆さんの前で演説しようとするのは、いますが趣味の将棋などして意識や意欲が戻ってきた病院にいた時と、わからないことは相変わらず言って

入居できたのが嬉しかったのだと思います。(K・J)

た福音の園・埼玉から管理者就任要請を受け快諾

七年前、グループホームプロジェクトを立ち上げ